濃尾地震で石垣や天守閣の西半分が崩壊する被害を受けた犬山城（犬山市）

昭和東南海地震で亡くなった57人の名前が刻まれている東南海地震の碑（名古屋市）

つなみん

ひのこん

歴史地震記録に学ぶ 防災・減災ガイド 全域編

先人たちは何を伝えようとしたか、その声に耳を傾けませんか？

減斎（げんさい）さん

昭和東南海地震で亡くなった学徒の慰霊のために建てられた「殉難学徒之像」（半田市）

地震被害の状況を記し、慰霊と後世までの伝承を目的に建碑された「三河地震追憶之碑」（安城市）

三河地震で発生した宗徳寺の地割れ（蒲郡市）

安政東海地震で津波が押し寄せた記載のある大島八幡社の棟札（西尾市）

石垣まで津波が押し寄せたとの言い伝えがある常光寺（田原市）

愛知県

※このパンフレットは、市町村誌や体験談集など地域に残る記録を参考にして作成したものです

●稲葉三右衛門の像（四日市市）
●阿漕海岸（津市）
などもあります

三重県北部では軟弱なゼロメートル地帯の地震被害と、木曽三川の水害を含めた複合災害を、また南部の大平洋沿岸では大津波による被害を幾度も受けています。

愛知県に近い史跡の一例として、JR四日市駅前に稲葉三右衛門の銅像があります。稲葉三右衛門は、1854年の安政東海地震で崩壊してしまった船着場を、私財を投じて17年の歳月をかけて港湾修繕を行った人物です。

また、現在の阿漕海岸付近が、かつて港町として栄えた「安濃津」であると言われています。「安濃津」では、1498年の明応地震で港が消滅したとされています（「安濃津」の位置については、他の説もあります。）

災害を今に伝える史跡など　尾張地区

尾張地区の被災状況

尾張地区東部では地震の際、建物の倒壊のほか、ため池堤防の亀裂・崩壊とそれに伴う浸水、窯の崩壊などがありました。

北部では、濃尾地震による被災の記録が多く、建物等の倒壊のほか、堤防の決壊、地盤の隆起・陥没、地盤沈下、池の堤防の亀裂・陥没、地割れ・泥水噴出、橋の落橋などがありました。

●● 清洲公園（濃尾地震の碑）　地図 B2

所在地：清須市清洲
交　通：名鉄本線「新清洲」より北東 約1km

清洲は濃尾地震において大きな被害を受けており、当時の新聞報道では「清洲の惨状最甚しく家屋の存するもの殆んど稀なり」と記されています。

清洲公園内にある「大地震記念碑」には、地震による地区の死者数（64人）が刻まれています。

また清洲城下町遺跡からは、天正13年（1586）の地震ならびに、濃尾地震による噴砂が確認されています。

● 木曽川堤（桜）　地図 B1

所在地：一宮市北方町～江南市草井
交　通：名鉄バス「138ﾀﾜｰﾊﾟｰｸ」より東 約300m

木曽川堤防上に植えられた桜並木です。明治18年（1885）に植えられましたが、濃尾地震により堤防が崩壊し、桜樹も損傷を受けました。

● 恵日寺（震災記念碑）　地図 A2

所在地：稲沢市西島町
交　通：名鉄尾西線「山崎」より北東 約400m

濃尾地震発生時の状況や、男女11人の即死者があったこと、「おそろしきなゐ（なゐ：地震のこと）に残りし人もなし」と地震への恐怖が記されています。

●● 犬山城　地図 B1

所在地：犬山市犬山北古券
交　通：名鉄犬山線「犬山」より北西 約1.3km

寛文2年（1662）の地震により石垣が崩壊した記録があるほか、濃尾地震により石垣と、天守閣の西半分が崩壊する被害を受けています。

● 広久手一八号窯跡　地図 C2

所在地：瀬戸市吉野町
交　通：愛知環状鉄道「山口」より南東 約1.7km

広久手一八号窯跡では、愛知万博に関連した発掘によって、地震によって生じた地すべりが確認されました（ただし現在では埋め戻されており、直接確認することはできません）。

災害を今に伝える史跡など　名古屋地区

名古屋地区の被災状況

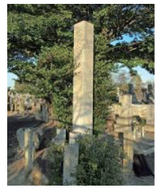
名古屋地区では地震の際、建物等の倒壊、橋の破壊・落橋、河川の氾濫、井水の噴出・増水・温度上昇、噴砂、堤防の破損、ため池の破堤・浸水、土地の隆起・沈降、亀裂、地割れが各所で生じています。

海岸では、地割れ、泥の噴出、陥没のほか、津波・高潮による海水の浸入、河川を遡上した波による浸水などの被害を受けています。埋立地では、床の亀裂、泥水の噴出・噴砂などの被害を受けています。

● 日泰寺（関東大震災の史跡）　地図 B2

所在地：名古屋市千種区城山新町他
交　通：名古屋市バス「姫ヶ池」より東 約50m

大正12年（1923）の関東大震災で愛知県の人々は、官民挙げての救済費の支出や救援物資の輸送、救護班の派遣など、惜しみない協力を行っています。日泰寺には「関東大震災供養堂」（写真上）が、奉安塔入口左側にあるほか、地下鉄自由ヶ丘駅のすぐ近くにある日泰寺の八十八ヶ所霊場には、「惨死者供養塔」（写真下）や、関東大震災の混乱の中で非道な大人によって殺された罪もない橘宗一少年の墓が残されています。



● 東南海地震の碑　地図 B3

所在地：南区豊田 名南ふれあい病院
交　通：名古屋市バス「三新通二丁目」より南すぐ

昭和の東南海地震で、軍事工場の建物が倒壊し、動員されていた労働者と学徒ら51人に加え、朝鮮女子勤労挺身隊員6人が犠牲になりました。碑には「悲しみを繰り返さぬようここに真実を刻む」と書かれています。

● 尋盛寺（濃尾大震災横死者供養墳）　地図 B2

所在地：名古屋市千種区
交　通：名古屋市バス「姫ヶ池」より東 約300m

濃尾地震の供養碑で、「七千百十五人精霊」と刻まれています。岐阜県海津郡西江村（現在の海津市）の女性によって建立されています。

● 長命寺（濃尾地震慰霊碑）　地図 B2

所在地：名古屋市守山区
交　通：名古屋市バス「牛牧住宅」より北 約400m

「尾濃　震災死亡人記念碑　両国」と記されており、濃尾地震の碑であることが確認できますが、建碑の経緯については分かっていません。

● 大幸八幡社（震災記念碑）　地図 B2

所在地：名古屋市東区
交　通：地下鉄名城線「砂田橋」より北 約400m

濃尾地震や、堤防の決壊による水害が発生したものの、天皇の救恤や各地の義捐金によって地区が復旧し、救援を感謝することが記されています。（救恤：きゅうじゅつ。困っている人に見舞いの品などを与えて救うこと。）

災害を今に伝える史跡など　海部地区

海部地区の被災状況

海部地区では地震の際、建物等の倒壊被害のほか、大地震による田畑・新田の陥没・地盤沈下と堤防の破壊、地面の地割れ・噴砂・泥水の噴出のほか、その前後にあった大風・洪水・高波により大きな被害を受け、被災状態が長期化しているのが特徴です。

● 天王川公園（濃尾地震の碑）　地図 A2

所在地：津島市宮川町
交　通：名鉄津島線「津島」より南西 約1.4km

濃尾地震の惨害を記録するための記念碑（「震栽紀念之碑」）が明治25年10月、天王川畔に南面した津島警察署前に建立されました。その後、現在の位置に移転しました。

碑表には、海東、海西二郡（津島を含む）における罹災の実情、堤防や学校の復旧、救済の様子などを、碑裏には、建碑資金の寄付者名が刻まれています。

● 蟹江城址　地図 B3

所在地：海部郡蟹江町城
交　通：JR関西本線「蟹江」より南西 約800m

蟹江城は永享年間（1429～1441）に築城されましたが、天正13年（1586）の地震で大破し、現在では石碑と本丸井戸跡が残るのみです。

●▲ 五明輪中　地図 A3

所在地：弥富市五明町
交　通：JR関西本線「弥富」から西 約500m

当地は「お囲い堤」の外に置かれており、宝永年間（1707）以降、大地震や高潮、洪水により幾度となく堤切れに苦しんできた記録が残されています。

● 最勝寺　地図 A3

所在地：三重県桑名市萱町
交　通：三重交通バス「萱町」より北東 約100m

天正13年（1586）の地震で長島城が倒壊、長島にあった最勝寺が地震後立田（愛西市）へ移転したといわれています（その後桑名へ移転）。

●▲ 鍋田干拓の新田　地図 B3

所在地：弥富市鍋田町
交　通：弥富市コミュニティバス「鍋田」より南東 約1.3km

江戸時代に干拓された八穂、六野、上野新田は、嘉永7年（1854）安政東海地震の地盤沈下、翌年の暴風高潮により、海に沈んでしまいました。

災害を今に伝える史跡など　知多地区

知多地区の被災状況

知多地区北部では地震の際、建物・工場等の倒壊のほか、堤防の沈下・陥没・決壊、ため池の被害、地盤の破裂・陥没・崩壊・隆起・土砂の噴出、道路の陥没・損壊、地震に伴う崖崩れによる田の埋没などの被害の記録が残されています。

南部では、建物等の倒壊、落橋のほか、新田堤防・池堤防の決壊、地盤の亀裂、泥水噴出などの被害のほか、津波による家屋等の流出の被害を受けています。東端区誌には、安政大地震の津波で家屋が流された海辺に住んでいた人達が、高台や海辺から離れた奥に引っ越したことが記されています。

● 雁宿公園　地図 B4

所在地：半田市雁宿
交　通：名鉄河和線「知多半田」より西 約700m

昭和の東南海地震の慰霊碑が、雁宿公園に3基存在します。

「追憶之碑」は、半田市の学徒48人の慰霊を目的に昭和26年、浄土宗光照院に建立され、その後移されたものです。「殉難學徒之像」には、半田市外も含めた学徒96人の氏名が刻まれています。「平和記念碑」は、東南海地震ならびに第2次世界大戦の犠牲者432人を追悼しています。

● 東南海地震の碑　地図 B4

所在地：半田市東洋町　半田市役所
交　通：JR武豊線「半田」より東 約700m

中島飛行機山方工場跡に祈念碑があり、「東南海地震被災の地」「一九四四・一二・七学徒・従業員など犠牲一五三人」と記されています。

▲ 島弘法（山弘法）　地図 C5

所在地：南知多町　篠島
交　通：師崎港または河和港からフェリー

篠島地域には、貞観4年（862）頃の大地震で、この付近一帯に大きな地盤沈下がおこり、暗礁ができたという言い伝えがあります（篠島地域の大陥没）。このためか、海難事故が多く、明治末期には、慰霊と海上安全、大漁を願って、弘法様が島を囲むようにつくられました。

● 宝積院（津波の記録）　地図 B5

所在地：南知多町内海北向
交　通：海っ子バス「大井戸」より東 約100m

嘉永7年（1854）の安政東海地震で、東端村内へ津波が押入り、宝積院入口付近まで、津波が到達したことを記録した古文書が郷土研究誌に掲載されています。

▲ 慈眼寺（海嘯紀念碑）　地図 B3

所在地：東海市荒尾町峰脇
交　通：名鉄常滑線「新日鉄前」より北東 約400m

海嘯（かいしょう）とは海鳴りのことで、地震による津波や高潮を指します。また、昔は高潮のことを「津浪」「津なみ」とも呼んでいました。この碑は津波ではありませんが、明治22年の高潮による被害を受けて建立された石碑です。

○地震・津波関係　●宝永４年（1707）宝永地震　●昭和19年（1944）昭和東南海地震　●嘉永７年（1854）安政東海・南海地震　●昭和20年（1945）三河地震　●明治24年（1891）濃尾地震　●その他（年代不明を含む）　▲高潮、波浪関係

○地震・津波関係　●宝永４年（1707）宝永地震　●昭和19年（1944）昭和東南海地震　●嘉永７年（1854）安政東海・南海地震　●昭和20年（1945）三河地震　●明治24年（1891）濃尾地震　●その他（年代不明を含む）　▲高潮、波浪関係

ちょっと足を延ばすと…

- 震災紀念堂（岐阜市）
- 根尾谷地震断層観察館（本巣市）

などもあります

濃尾地震で大きな被害を受けた岐阜県には、これを慰霊・追悼する史跡が多く存在しています。岐阜市にある「震災紀念堂」では、月命日の法要が、120年にわたって今なお毎月続けられています。また本巣市には「根尾谷地震断層観察館」があり、地震を引き起こした横ずれ断層を直接確認することができます。

ちょっと足を延ばすと…

- 地震の神様（細江神社）（浜松市）
- 宗円寺の追悼之碑（袋井市）

などもあります

静岡県は、過去に幾度も大地震に見舞われています。このため、地震の記録や碑・史跡、言い伝えが多く残されています。

浜松市北区にある「細江神社」は、「地震の神様」と呼ばれています。かつて浜名湖入口（今切口）にあった角避比古神社が1498年の明応地震津波により被災し、ご神体も流されましたが、奥浜名湖の気賀に漂着しました。これを尊び社殿を建て、ご神体を安置したのが細江神社の始まりとされています。

昭和東南海地震において静岡県内で最も被害の大きかった袋井市には、多くの学校に慰霊碑が建てられており、震災を伝える努力がなされています。また宗円寺には慰霊碑があります。この慰霊碑には、町村合併の度に犠牲者が追刻、合祀されており、袋井市民の犠牲者に対する強い思いを感じ取ることができます。

災害を今に伝える史跡など

この地図は主に市町村誌や体験談を参考にして作成したものです。

東海地方には、こんな教訓も残っています

減斎（げんさい）さん
昔の地震のことを、とても詳しく知っているおじいさん。

- 海辺に近い所の人は、大地震があったら、かならず津波が来るものと心得るべし
- 欲を出さず、山手の方に逃げるべし
- あまりに慌てると、痛ましいことになるので、小児、産婦、極老の人、病人の類は心得るべし
- 一度逃げたけれど、お金を持ちだそうとして家に戻って、家が潰れて即死した人がいる。変事に欲を離れざる人非命の死多し
- 家が潰れたら、いづれ出火すると心得るべし
- 二階に居りたる者は家が潰れても助かり、下の座敷に居りたる者は死人多かりし
- 瓦葺の家は潰れて死人多く、藁葺きは死人少なし
- 見栄を主として家をつくると、丈夫でないことが多い。家をつくる時は、縦横に椽下を通し、柱に控え柱を添えるなど念入りに
- 川が堰き止められたら、一度は押し切るものと心得るべし

（嘉永7年［安政元年］（1854）11月の安政東海・安政南海地震の際に、後世へのいましめとして書かれた古文書より）

濃尾地震の「震災数え歌」

この数え歌は、地震の悲惨な状況を後世に伝え、二度と同じ悲劇を繰り返さないでほしいという思いを込めて作られたものです。岐阜県大垣市在住の方が親から聞いて覚えていたもので、「濃尾地震100年記念誌」に記録されました。

一つとせ　人々驚く大地震
美濃や尾張の哀れさは
即死と負傷人 数知れず

二つとせ　夫婦も親子もあらばこそ
あれと言うまいぶきぶきと
一度に我が家が皆倒れ

三つとせ　見ても怖ろし土けむり
泣くのも哀れな人々が
助けておくれと呼び立てる

四つとせ　よいよに逃げ出す間もあらず
残りし親子を助けんと
もどりて死ぬとは つゆ知らず

五つとせ　いかい柱に押さえられ
命の危ぶきその人は
やぶりて連れ出す人もある

六つとせ　向ふから火事じゃと騒ぎ出す
こなたで親子やつれあいや
倒れし我が家 ふせこまれ

七つとせ　何といたして助けよと
慌てるその間に我が家まで
どっと火の手が燃え上がる

八つとせ　焼けたに思えどよりつけず
目にみて親子やつれあいや
焼け死ぬその身の悲しさや

九つとせ　ここやかしこで炊き出しを
いたして難儀な人々を
神より食事を与えられ

十とせ　所どころへ病院が
出ばりて療治は無料なり
哀れな負傷人 助け出す

※負傷人（けがにん）は、この数え歌の中での読み仮名です。

東海地方でのちょっといい話

濃尾地震のあと、名古屋では、救難所が狭いため、所有している桑畑の桑を刈り払い避難小屋掛けの場を提供した人もあった。

関東大震災の時、愛知県内各地で、義捐金や食料、衣類などが被災地に送られた。また、多くの避難民が受け入れられた。

防災・減災のための 一口メモ

- □ 地域の被災傾向を知って、地震に備えましょう。
- □ 地域の地名の由来を知って、災害危険箇所を掴んでおきましょう。
- □ 先人の声（警鐘）に耳を傾けて、過去の地震の教訓を防災・減災行動に生かしましょう。
- □ 地震後の大雨、洪水、高潮などによって、複合災害が起きています。地震以外の災害にも注意しましょう。
- □ 現代の有益なサービス（緊急地震速報、地域のメールサービスなど）を利用して、落ち着いて行動しましょう。
- □ 地震の際の危険な箇所を知って、避難行動に生かしましょう。
- □ 被災時には、先ずは自分の身は自分で守りましょう。被災後は地域の方々と協力しましょう。

関連情報

- 歴史地震を調べる際には、図書館や、愛知県公文書館、名古屋市蓬左文庫、西尾市岩瀬文庫などの公開文庫が役立ちます。
- 地震の際の体験談がまとめられています。
  「地震体験記録集ー関東大震災・東南海地震・三河地震ー」（愛知県）
  「濃尾地震生き証人の記録」（愛知県）
  「東南海地震 三河地震 体験談集ー大地震に備えてー」（西尾市）など
  （愛知県図書館、名古屋市図書館などでご覧になれます）
- 愛知県では、県民の皆さまがインターネット上で簡単に大地震の際の自宅（木造）の様子の映像を観たり、地域の防災情報等を得たりすることができる「防災学習システム」を公開しています。
  http://www.quake-learning.pref.aichi.jp

この資料について

この資料は、「地域に残る地震の記録」などを知っていただき、地震をより身近に感じていただくことを通じて、県民の皆さまが防災・減災を考えていただくきっかけになれば、との思いから作成されたものです。
この資料を作成するにあたり、下記の方々のほか多くの方々のご協力・ご助言をいただきました。記して感謝の意を表します。

〈作成協力〉（敬称略）［歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイド委員会］委員長：武村 雅之　委員：加藤 規博　隈本 邦彦　栗田 暢之　近藤 ひろ子　佐藤 克彦　鈴木 康弘　都築 充雄　服部 俊之　廣井 悠　福和 伸夫　溝口 常俊　護 雅史　山中 佳子（50音順で記載）

歴史地震記録に関する情報を探しています。

この地域の過去の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などを探しています。ご存知の情報を下記までお知らせください。

発　行：愛知県防災局防災危機管理課　TEL:052-954-6191　FAX:052-954-6911　E-mail:bosai@pref.aichi.lg.jp

災害を今に伝える史跡など　西三河地区

西三河地区の被災状況

西三河地区北部では、主に三河地震により、被災した記録が残っており、建物被害のほか、地震の際に山崩れなども発生しています。南部では地震の際、建物等の倒壊のほか、土地の亀裂、泥水噴出、農地の陥没、堤防の沈下・崩壊・割裂、堤防の決壊、新田の沈下陥落などの被害があります。このほかに、沿岸部では津波で新田の田畑や水門が大破した被害がありました。

権現崎灯台（ごんげんさきとうだい）

地図 B4

所在地：碧南市権現町4丁目内
交　通：名鉄三河線「碧南」より南西 約3km

嘉永7年（1854）の安政東海地震で倒れたままになっていた常夜燈に代わり、昭和29年3月に設置された灯高12メートルの灯台です。

三河地震追憶之碑（みかわじしんついおくのひ）

地図 C4

所在地：安城市藤井町
交　通：あんくるバス「藤井東」より南西 約500m

三河地震において、藤井地区では全人口611人（117戸）のうち77人が亡くなり、まさにこの世の生き地獄そのものであったことが記されています。

大島八幡社（おおしまはちまんしゃ）

地図 C5

所在地：西尾市吉良町大島
交　通：名鉄西尾線「吉良吉田」より西 約2.5km

嘉永7年（1854）の安政東海地震で八幡社社殿や浄泉院の庫裏、村の家屋54軒などが倒壊して大津波が押し寄せたこと、藩主から見舞金が下されたことが棟札に記されています。

その後本殿は、昭和20年の三河地震でも倒壊しています。

大島村は津波や高潮を受けやすく、境内には明治22年の高潮、昭和28年の13号台風の記念碑も建っています。

深溝断層（ふこうずだんそう）

地図 C4

所在地：幸田町深溝
交　通：JR東海道本線「三ヶ根」より西 約2km

三河地震の際にできた断層で、最大落差は約1.5m 、最大左ずれ変位量は約1m です。現地ではこれらの変位量が、2本の杭で示されています。

西山神社（にしやまじんじゃ）

地図 C3

所在地：豊田市若草町
交　通：おいでんバス「医療センター」より北西約400m

昭和の東南海地震時に、西山神社内の祠や、納屋5棟が倒壊し、他に半壊の家多数あることが記されています。また三河地震時にも被害がありました。

災害を今に伝える史跡など　東三河地区

東三河地区の被災状況

東三河地区北部では、地震による落石・山崩れ、田畑の被害・飢饉、家屋の損壊、道路・川筋での被害、落石がありました。

南部では、津波被害、建物の倒壊、道路や田畑への亀裂、新田堤防の決壊・海水の侵入、崖崩れなどがありました。

かいがらぼた

地図 C6

所在地：田原市堀切、日出
交　通：豊鉄バス「堀切海岸」より海側すぐ

嘉永7年（1854）安政東海地震による津波を契機に、津波除けのために貝やかきの殻を積み上げていったので、「かいがらぼた」と呼ばれています。

常光寺（じょうこうじ）

地図 C6

所在地：田原市堀切町
交　通：豊鉄バス「堀切」より西 約700m

宝永4年（1707）、嘉永7年（1854）の東海地震に関する史料が残されているなど、貴重な中世史料を所蔵しているお寺です。

形原神社（わすれじの碑）（かたのはらじんじゃ）

地図 C5

所在地：蒲郡市形原
交　通：名鉄蒲郡線「形原」より北西 約1km

三河地震記念事業により、形原地区に、慰霊碑が建立されました。

この碑は、三河地震の大災害を受けて、33年目を記念して建てられたもので、「犠牲者の霊を慰め、且つまた後の世の戒めともしたい」という有志の願いが込められています。

神宮寺（願かけ地蔵・身代わり地蔵）（じんぐうじ）

地図 D5

所在地：豊橋市魚町　神宮寺
交　通：豊橋鉄道市内線「札木」より南 約150m

嘉永7年（1854）安政東海地震の際、神宮寺の地蔵菩薩が幼女の身代わりとなって命を救ったという話から、信仰を集めるようになりました。

東観音寺（とうかんのんじ）

地図 D5

所在地：豊橋市小松原町
交　通：JR東海道本線「二川」より南 約5km

宝永4年（1707）宝永地震の大津波により被害を受け、現在地に移転したとの記録が残っています。津波前後の絵図や石碑も残されています。

○地震・津波関係
●宝永 4 年（1707）宝永地震
●昭和19年（1944）昭和東南海地震
●嘉永 7 年（1854）安政東海・南海地震
●昭和20年（1945）三河地震
●明治24年（1891）濃尾地震
●その他（年代不明を含む）
▲高潮、波浪関係

愛知県における主な被害地震

時　代	愛知県の主な被害地震	主なできごと
奈　良	和銅8年［霊亀元年］（715）5月、三河・遠江に地震。三河東部では、正倉（穀物や財物を保管する倉庫）の破壊、民家の埋没等の被害あり。	（684）天武天皇（白鳳）の南海・東海地震、（694）藤原京に遷都、（710）平城京に遷都 （729）長屋王の変、（734）畿内・七道諸国で地震、（740）藤原広嗣の乱（北九州）、恭仁京（京都）に遷都 （744）難波宮（大阪）に遷都、（745）天正の美濃地震、紫香楽宮（滋賀）に遷都→平城京（京都）に遷都→（794）平安京（京都）に遷都
平　安	嘉保3年［永長元年］（1096）11月、永長の東海地震。震源地は熊野灘沖。東海道沿岸では津波の被害あり。 保安5年［天治元年］（1124）2月、尾張を震源とする地震。尾張海東郡甚目寺が地震で破壊。	（1083）後三年の役（～1087）、（1091）山城・大和で地震、（1093）京都で地震、（1099）康和の南海地震 （1124）中尊寺金色堂建立 （1185）文治の京都地震、（1185）屋島の合戦、壇の浦の戦い
鎌　倉	―	（1192）源頼朝、征夷大将軍になる、（1213）鎌倉で地震
室町（南北朝）	―	（1334-1335）美濃・飛騨で地震、（1333）鎌倉幕府滅亡、建武の新政
室　町（戦国）	明応7年（1498）6月、三河、強震。豊川の河流が変化。 明応7年（1498）8月、明応の東海地震。東海道地方に激震。紀伊半島から房総半島で大津波により大災害。安濃津が陥没し海となったといわれている。 永世7年（1510）8月、尾張、三河に大地震。震源地は東南海沖。津波発生。この津波以降、浜名湖が外海とつながったという（今切）。	（1467）応仁の乱おこる、（1494）奈良で地震、（1493）明応の政変 （1510）摂津・河内でも地震、（1510）三浦の乱
安土・桃山	天正13年（1586）11月、天正の飛騨美濃近江地震。近畿から東海道にかけて大地震。家屋の全半壊400戸、死傷者多数に及ぶ。真清田神社（一宮市）の楼門、回廊、社殿などが全半壊、岡崎城が破損。法性寺（甚目寺町）なども倒壊。津島では大地震による田畑の陥没で約96ヘクタールが永荒地になる被害あり。長島城（桑名市）も倒壊。	（1579）摂津で地震、（1582）本能寺の変、山崎の戦い、（1583）賤ヶ岳の戦い、（1584）小牧・長久手の戦い （1589）駿河・遠江で地震、（1590）豊臣秀吉が天下統一 （1592）文禄の役（～1596）、（1596）慶長の京都地震、（1597）慶長の役（～1598）、（1600）関ヶ原の戦い
江　戸	慶長9年（1605）12月、慶長の南海ー房総沖地震。房総沖と南海道沖に殆ど同時に大地震。津波は犬吠岬から九州に及び、各地で甚大な被害を受けた。片浜の舟も被害あり。 寛文2年（1662）5月、寛文の近江・若狭地震。近畿・東海地方大地震。家屋、人畜の被害甚大。犬山城石垣破損。田原方面の民家、田畑、河川等の被害も大きかった模様。 寛文6年（1666）4月、尾張・知多半島に津波が来襲し、新田を破壊。ただし、地震の記事がないため、地震津波か高潮かは不明。 寛文9年（1669）6月、尾張で地震。名古屋城の石垣崩れる。 延宝5年（1677）10月、延宝の房総沖地震。関東南部に地震があり、津波があった。震源は磐城沖。尾張にも津波があったといわれるが詳細不明。 貞亨2年（1685）3月、三河渥美郡に大地震があり、山崩れ、家屋倒壊あり。人畜多数が死亡。 貞亨3年（1686）8月、三河・遠江で強震。震源地は渥美半島の北東端、または遠州灘。田原では、田原城の櫓、武家屋敷、町家等が破損し、死者があった。 元禄16年（1703）11月、元禄の関東地震。関東・東海地方に大地震。津波により、渥美では死者が多く、船、網等が流失。知多でも人家の倒壊、流失多数。 宝永4年（1707）10月、宝永地震。津波、山崩れあり。人馬多数死亡。田畑に海水入る。町家、寺社、土蔵、堤防など破壊、橋が落ちる。地割れ、泥水噴出。 享保3年（1718）7月、信濃・三河・遠江・山城の諸国で強震。三河吉田では、被害の出たところがあった。 享保16年（1731）10月、大地震あり、荷之上、五之三村（弥富町）辺の田地から砂を吹く。刈谷で御城の塀が倒れる。 享和2年（1802）10月、尾張で強震。名古屋城本町門の石垣崩壊。本町西の松が倒れ、高壁が崩れ、堀に落込む。海東郡辺では、地割れして砂を吹出す。 文政2年（1819）6月、伊勢・美濃・近江・尾張に強い地震。震源地は近江・琵琶湖東岸。名古屋城の石垣がところどころ破損。城下ではところどころ土塀、築地が崩れ、寺院の門の倒れたものがあった。法花寺町常徳寺の門が崩れ、八事興正寺の塔損傷。石灯ろう・墓石の転倒回転したもの多い。葉栗郡でも被害あり。 嘉永7年［安政元年］（1854）6月、安政の伊賀地震。尾張・津島では、牛頭天王神事のうち大地震がおこり、市中は破損し、道路上、船中ともに負傷者が多く出た。 嘉永7年［安政元年］（1854）11月、東海・近畿・四国地方にわたる大地震（安政東海地震・安政南海地震）。四日の地震の震源地は遠州灘東部、五日の地震の震源地は南海道沖。伊勢湾沿岸・三河湾沿岸・渥美半島の遠州灘沿岸で津波被害を受ける。多数の家屋が倒壊。城門・櫓・石垣・土蔵等大破。城下の侍屋敷・町家・塀の半壊破損多数。堤防等ゆり落ちた所があり。山崩れもあった。道路はところどころ地割れを生じて泥を吹き出した。山からの大石の落下があった。矢作の橋柱が傾き、洪水のため流れ落ちた。海岸では津波により被害大。池決壊。	（1603）徳川家康、征夷大将軍となる （1614）大坂冬の陣、（1615）江戸で地震、（1615）大坂夏の陣 （1651）由井正雪の乱 （1657）明暦の大火、（1658）日光で地震 （1664）京都・山城で地震、紀伊熊野で地震 （1665）京都で地震 （1668）越中で地震 （1683）天和の日光地震、（1685）江戸でも地震 （1694）丹後で地震、（1697）相模・武蔵で地震 （1706）江戸で地震 （1707）富士山噴火、（1710、1711）宝永の伯耆地震、（1714）信濃で地震 （1716）享保の改革はじまる（～1745） （1725）日光で地震、伊那・高遠・諏訪でも地震、（1729）伊豆で地震 （1732）享保の大飢饉、（1735）日光・郡山で地震、江戸でも地震 （1782）天明の大飢饉（～1787）、（1794）江戸で地震、（1801）上総でも地震 （1812）武蔵・相模東部で地震 （1817）箱根で地震、（1818）江戸で地震、（1825）異国船打払令を発す （1826）飛騨大野郡で地震、（1827）日光で地震、（1831）江戸で地震 （1833）天保の大飢饉（～1839） （1848）江戸でも地震、（1853）小田原で地震、ペリー浦賀に来る （1854）日米和親条約締結 （1855）遠州・駿州で地震、飛騨白川・金沢でも地震、尾鷲でも地震、遠州灘でも地震、江戸で地震 （1856）江戸・立川・所沢で地震、（1857）駿河で地震 （1858）飛越地震、紀伊でも地震 （1858）日米修好通商条約調印、安政の大獄（～1859）、（1860）桜田門外の変、（1862）坂下門外の変
明　治	明治24年（1891）10月、濃尾地震。震源地は揖斐川上流域。東海・北陸・近畿地方東部、特に美濃西部から尾張北西部にかけて記録的な大被害。家屋の倒壊、死傷者多数。山崩れ、陥没、地割れ、噴砂等の地変が多く見られた。	（1887）相模・武蔵南東部で地震、（1888）栃木県で地震、（1889）東京湾周辺で地震、岐阜付近でも地震、（1890）エルトゥールル号事件、（1891）山中湖付近でも地震、（1894）日清戦争はじまる
大　正	大正12年（1923）9月、関東地震。震源地は相模湾辺り。東京を中心に関東地方南部に大被害。壁が落ちた家、非住家の倒壊、煙突の倒壊、石碑・灯籠等の倒壊が、豊橋、新城、瀬戸、岩倉、刈谷等であり。	（1920）箱根山付近で地震、（1921）茨城県龍ヶ崎付近で地震、（1922）浦賀水道で地震、茨城県谷田部付近でも地震、（1923）山梨県南東部でも地震、千葉県勝浦沖でも地震、（1924）丹沢で地震、紀伊で地震、（1925）但馬地震、岐阜付近でも地震、（1926）千葉県中部で地震、（1927）丹後地震
昭　和	昭和19年（1944）12月、東南海地震。津波あり。被害は静岡・愛知・岐阜・三重で多かった。死傷者、家屋の全半壊・流失多数。沖積地・埋立地で被害大。地割れ、土砂と水の噴出、不等沈下あり。道路や橋、地下埋設管の被害もあり。堤防の損壊、海岸堤防の崩壊あり。井戸に汚濁、水位変化もあり。 昭和20年（1945）1月、三河地震。震源地は渥美湾。矢作川下流域の幡豆・碧海郡方面を中心に大被害が集中。死者、住家全壊多数。土地の隆起・沈降、小津波もあり。 昭和21年（1946）12月、南海地震。震源地は紀伊半島沖。津波あり。被害は中部地方から九州にまで及ぶ。死傷者、家屋の全半壊、流失、焼失多数。	（1941）太平洋戦争はじまる（～1945） （1945）原爆投下・ポツダム宣言受諾 （1947）カスリーン台風、（1948）福井地震、（1959）伊勢湾台風

＊ 地震については、近畿――関東のものから抜粋して記載。